

# フェイスブックの友達の皆様

私の神奈川新聞の掲載 我が人生です 10 回ずつまとめて読める サイトです一定の手続きしないと読めませんあくまでも著作権は神奈川新聞さんですのでご承知下さい。掲載回数は 63 回 3 ヶ月の予定です。



神奈川新聞から  
お知らせ

神奈川ゆかりの各界の著名人が、自らの道のりを振り返る連載「わが人生」は3月1日から、万葉倶楽部（くらぶ）代表取締役会長の高橋弘（たかはし・ひろし）さんが登場します。

高橋さんは1935年、静岡県生まれ、小田原市在住。同県立三島南高校を卒業後、父が経営する酒販店勤務を経て、57年にアルプス写真を創業。60年に写真DPE事業の日本ジャンボを設立。97年には万葉倶楽部（本社・小田原市）を開業し、都市型温泉レジャー施設の先駆となります。温泉施設は現在、県内に「横浜みなとみらい 万葉倶楽部」など3カ所、県外にも6カ所と拡大しています。約3カ月の連載では、生まれ育った熱海の思い出、酒販店時代の苦心談、写真業界から温泉施設への大転換の逸話、経営理念に加え、都市開発事業への取り組みなども紹介します。ご期待ください。

わが人生3月1日から

高橋弘さん登場

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

3月1日[水]

大安

©神奈川新聞社 26789号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

わが人生  
1  
20

本社近くの「小田原お堀端 万葉の湯」前で、「小田原駅から徒歩1分なので」ビジネスマンの利用も多いんですよ」と筆者  
小田原市栄町



万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋 弘

皆さん、温泉は好きですか。私は静岡の熱海出身ということもあって大好きです。芯から温まり、体も心もリラックスできます。そんな温泉を都市部で楽しめるのが「万葉の湯」「万葉倶楽部」です。県内では横浜・みなとみらい21(MM21)地区、小田原市、秦野市内にあります。ほかに町田市と沼津市、北海道の旭川市と大町市、神戸市、福岡市にもあり、現在全国9カ所で営業しています。いずれの「万葉」も、高級温泉旅館のような上質のくつろぎを気軽に味わっていただけるのが特徴です。

を例にとると、現在湯河原温泉の源泉を毎日20立方メートルのトレーラーで3〜6回運び入れ、大浴場、露天風呂、ひのき風呂、石風呂、寝湯などのほか、屋上の足湯に使っています。展望足湯庭園は広々とした空の下、足湯につかりながらMM21地区や横浜港などの

## 温泉の癒やし気軽に

すると、私は温泉ビジネス一筋できたと思われるかも知れませんが、しかし、もと「写真屋」です。銀塩写真のフィルムを現像したり、プリントしたりする、DPE事業の会社「日本ジャンボ」を1960年に25歳で創業し、全国に展開してきました。その前は「酒屋」

DPE、温浴施設というまるで異なる業種に私がどう取り組んできたか、振り返ってみたいと思います。また、万葉倶楽部は近年、都市開発事業も手掛けており、2016年3月に、今話題の東京・豊洲市場の敷地内に新設される「千客万来施設」の事業予定者に決

「本物」にこだわって、お湯は天然温泉を毎日源泉から運び入れています。2005年開業の「横浜みなとみらい 万葉倶楽部」

横浜らしい風景を一望できると大変好評です。9カ所とも食事処、仮眠室、エステやマッサージなどの付帯施設が充実しており、お一人でもカップルでも「家族連れでも、一日楽しめて過ごせます。」「横浜みなとみらい」など6カ所では、客室宿泊もできます。さて、このようにお話し

でした。父が営んでいた家の酒販店が、私の仕事人生の始まりです。本連載では、酒販、写真

高橋 弘(たかはし・ひろし) 1935年、静岡県熱海市(現熱海市)生まれ。54年に同県立三島南高校を卒業後、父が経営する高橋酒店に入社。57年にアルプス写真創業。60年に写真DPE事業の日本ジャンボ設立。97年に万葉倶楽部(本社・小田原市)を設立し、東京都町田市に「東京・湯河原温泉 万葉の湯」を開業。都市型温浴レジャー施設の先駆となる。温浴施設は現在横浜みなとみらい「万葉倶楽部」(横浜市中区)など全国9カ所。小田原市栄町。81歳。

定しました。飲食・物販、温泉・ホテル事業の展開を計画しています。同年12月には、小田原市による「小田原駅東口お城通り地区再開発事業 広域交流施設ゾーン整備事業」の優先交渉権者にも決定しました。こうした現在進行形の事業についても、可能な限りホットな話題をお伝えできたらと思っています。では時間を八十余年さかのぼり、私の生まれた1935年から話を始めることにしましょう。場所は静岡・熱海の伊豆山です。(たかはし・ひろし)





筆者の生家のすぐそばにある伊豆山神社からは、相模湾が一望できる  
—2017年1月、静岡県熱海市(筆者撮影)

2017年[平成29年]

3月2日[木]

赤口

©神奈川新聞社 26790号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

「運転手さん、湯河原まで頼みます」

1935年7月10日、私の父高橋祥太郎は弾んだ声でそう言い、勤務先のある静岡・熱海の市街地でタクシーに乗り込みました。

「お客さん、何かいいことでもあったんですか」  
「うん、長男が生まれたんだ。跡取り息子だよ」  
私が生まれた日、父はタクシーで湯河原にある母スガ子の実家に向かったそうです。車中でこんな会話がなされたかもしれないという想像してしまうのは、約60年後、こんなことがあったからです。父に「俺、弘」

という名前、気に入って

いるんだけど、どうして付けたの」と尋ねてみたのです。父は、タクシーの運転手さんの名前からヒントを得たのだ、と話してくれました。

## 戦中農業に転じた父

した。父が没する1年ほど前のことでした。

由来を聞いてよかったと思っています。「高橋弘」を姓名判断で見てもうとうと、どの易者にも最高の字画だと言われるからです。

さて、母と赤ん坊の私が戻った自宅は、熱海の中心部から約3キロほど東京寄り

の伊豆山にありました。

自宅では祖父の高橋安蔵が、農業の傍ら小さな店を営んでいました。食品や雑貨を扱う「一文商い」で、屋号は「いわで」「上の方」を意味する「うわで」がなまった形です。この名の通りわが家は山の中腹にありました。すぐ上には、海抜

合い結婚だそうです。小柄な体格が幸いしてか、徴兵検査で「甲種」合格とならず兵役に就きませんでした。ところが37年に始まった日中戦争が長期化し、さらに41年に太平洋戦争が始まると、政府は「徴用」という形で労働力を招集するようになります。兵役では

していた小作地を返してもらって耕作を始めたおかげで、戦後、小作地の解放を目的とした農地改革で農地を国に買い上げられずに済み、食糧難の時代を乗り切ることができました。

私は姉1人、弟妹が5人の7人きょうだいの長男です。「産めよ殖やせよ」が国策で、どの家も子だくさんが当たり前でした。

子どもが家の手伝いをするの当たり前で、農業のほか「いわで」も手伝いました。戦中・戦後はたばこが配給制だったので、朝5時から夕方までお客さんが店の前に並びます。でも、数が少ないので全員には行き渡りません。「もう終わり

ました」と伝えたときの相手がのっかりした表情は、今も覚えています。

(たかはし・ひろし)



# 神奈川新聞

THE  
KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月3日〔金〕

先勝

©神奈川新聞社 26791号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111〔1ヵ月3189円・1部120円〕

わが人生  
3



伊豆山神社の例大祭で稚児を務めた妹君子（左から2人目）と父祥太郎（中央）  
＝1954年、静岡県熱海市（筆者撮影）

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1942年4月、私は静

岡県の熱海市熱海国民学校  
（現熱海市立第一小学校）

に入学しました。私の最も  
古い記憶は、同校の入学式  
の朝の出来事です。

「学校に行きたくない」  
と勇気を奮って口にしたの  
です。驚いた父が「何を言  
うんだ。行きなさい」と言  
つても、「嫌だ、行かない」

の一点張り。押し問答の末、  
私はワーンと泣きだしまし  
た。何としても行きたくな  
い。その意志を押し通そう

と泣いたので、鮮明に覚え  
ています。父の言うことを  
聞かなかったのは、おそら  
く生まれて初めてでした。

当時の家庭では、父親は絶  
対的存在でした。

学校に行きたくなかった  
理由は、大勢の知らない子  
と過ごすことに気後れした  
からです。私は幼稚園が近

くになかったので行ってお  
らず、国民学校が人生初の  
集団生活でした。

「じゃあ、学校に行くま  
でこうしていいかい」  
父は泣いている私を自宅

裏の倉庫の2階に連れてい  
き、柱にくるくると縛り付  
けました。

一人残され、どのくらい  
山の中腹にあるわが家の

## 登校拒んだ後は皆勤

たつたでしょう。ついに観  
念した私は、入学式に行き  
ました。そしてこのとき学  
校に行く決めてからは、  
一度も休みませんでした。

当時同校は熱海駅の近く  
にあり、自宅から徒歩で30  
分以上かかりました。在校  
時に空襲警報が発令される  
と、児童は帰宅させられま  
す。すぐ上には伊豆山神社があ  
り、神社から海岸まで800  
0段以上の階段がまっす  
ぐ続いています。眼下には  
相模湾が広がり、細く続く  
2級国道135号下田小田  
原線（現国道）には、立ち  
並ぶ旅館が見渡せました。  
私の原風景です。

4月15日には同神社の例  
大祭がありました。この日  
は学校が早く終業し、先生  
に連れられて、みんなでお  
参りに行って現地解散でし  
た。農機具や瀬戸物などを  
売る露店がたくさん出まし  
た。親からお祭りのお小遣  
いをもらえるのが、とても  
うれしかった。小遣いを  
もらえるのはお祭りと、  
正月のお年玉くらいでした  
から。境内の桜は今年より  
花時期が遅く、年によって  
はちょうど祭りの頃に満開  
になることもありました。  
（たかはし・ひろし）

すが、警報が解除されたら  
学校に戻るきまりでした。  
多くの子はこれ幸いと戻り  
ませんが、私はまじめに学  
校に戻り、再開された授業  
を受けました。約400人の  
同級生のうち、6年間皆  
勤したのは私を含めわずか  
6人でした。

国でも珍しい横穴式源泉の  
「走り湯」が湧いています。  
伊豆山神社の名は、湯が出  
づに由来するといわれ、伊  
豆の地名もここから生ま  
れたといわれます。

子ども時代の思い出は同  
神社と深く結び付いていま  
す。鬼ごっこや隠れんぼで  
遊ぶのは境内や、鳥居の下



# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

3月6日[月]

仏滅

©神奈川新聞社 26794号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111[1ヵ月3189円・1部120円]

わが人生 4



伊豆山神社から海岸に続く837段の階段は、筆者（中央）の子ども時代の思い出深く結び付いている

|| 2017年1月 | 静岡県熱海市

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

私の子ども時代は、戦争の時代でした。通っていた静岡の熱海市熱海国民学校（現熱海市立第一小学校）には兵隊さんが来たり、掲示板にシンガポール陥落の記事が張られていたりしました。体育で行うサッカーは「敵性語」の英語を避け「蹴球」と呼びました。

3年生になった1944年の末頃から、米軍機の空襲が本格的になりました。熱海は観光地なので私は実際の空襲体験はありませんが、校庭に防空壕を掘り、逃げ込む訓練をしました。東京・横浜方面から大勢の子どもたちが疎開してきました。縁故疎開の子たち

は同じ学校に通ってくるので、すぐに仲良くなりました。そのうちの一人とは、70年以上たった今も親交が続いています。

戦争が激しくなる前は近所で外国人を見掛けることもしばしばあり、「外人さん、グッドバイ」と元気にあいさつしたものです。子ども心に平和な時代と外国人の姿とが重なり、戦争が終わったことに明るい気持ちを抱いたのでしょう。

家なので部屋はたくさんありましたが、田畑が手元に残っていたので、食糧もどうにか確保できました。米が足りなければ大根を混ぜて炊いたり、サツマイモの枯れた葉っぱを粉にして団子にしたりしました。サツマイモの葉の団子は甘みがあり、結構おいしいのです。十分ではないけれども、みんなで分け合って食べることはできました。

## 親族と約20人で同居

やがて空襲警報が頻繁に発令されるせいで登校が難しくなり、地区ごとに分かれて授業をするようになり、分散教育です。私の地区は伊豆山神社の社務所が教室になりました。1、2人の先生が地区の全学年を担当しました。鉛筆も紙も欠乏していたので、ち

「日本は負けたんだな」「でも、また外人さんが来るようになるね」

伊豆山には熱海ホテルと樋口ホテルという、外国人も宿泊できるリゾートホテルが2軒ありました。熱海ホテルは、白い壁と赤い屋根をしたスパニッシュ様式の美しいホテルでした。

族が満州（中国東北部）から引き揚げてきて、わが家で同居しました。私の伯父、伯母、いとこです。満州にいた伯父の一人はシベリアに抑留されました。

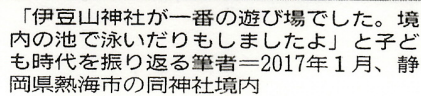
いことが6人、私たちがようだが7人、一時期は合計20人近くが一軒に住んでいました。でも、田舎の

（たかし・ひろし）



大安

総合受付 045-227-1111 [ 1 力月3189円・1 部120円 ]



皆で落ち葉を掃き境内がすっきりすると、すがすがしい気持ちになりました。

(たかはし・ひろし)



# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

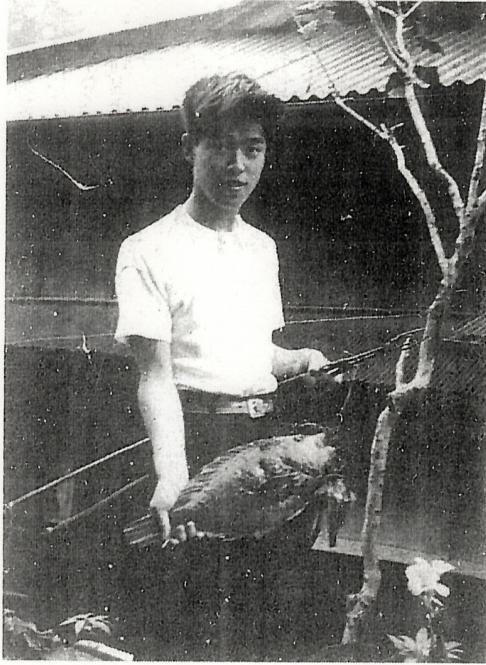
3月8日[水]

赤口

©神奈川新聞社 26796号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

わが人生  
6  
20

釣り上げた大きな魚を誇らしげに手にする筆者  
11952年1月、静岡県熱海市



万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

静岡の熱海市伊豆山で子ども時代を過ごした私にとって、海は常に身近な存在でした。自宅のすぐ上にある伊豆山神社からは長い階段がまっすぐ海岸まで続いており、海に行くときはその階段をどこまで下りていきました。当時は砂浜があり、貝がよく採れました。

階段を下りた先に横穴式源泉「走り湯」が湧き出ていることは前にも触れましたが、私の子どもの頃はそれが、私の子ども達の頃はそれが、走り湯を利用した共同浴場が設けられていました。わが家にも風呂はありましたが、時には長い階段を下りて、共同浴場に行ったものです。

かつて走り湯は、山腹から海岸に飛ぶように流れ出ていたそうです。現在は洞窟の奥で源泉から引き込んだ湯が、ぼこぼこと湧き出

放り込まれました。

ドボン、ブクブク…。何が何だか分からないまま体が沈み、青い水が見えました。体がゆっくり浮き上がります。めちやくちゃに体を動かして浜に戻り、置いてあった服を抱えて逃げ帰りました。

の遠かったこと！頑張っ  
て泳ぎ着いたときの達成感  
は忘れられません。  
中学生くらいになると、  
伊豆山港の防波堤で釣りを  
するようになりました。高  
校を卒業後は小さなボート  
を手に入れ、エンジンやス  
クリューなど推進機関が一  
体となった取り外し式の船

細かい切れ目を入れて自作  
したもので、弓形のワイヤ  
の動きで水中でひらひら泳  
いでいるように見えるので  
す。これら一式は竿ではな  
くテグス糸に取り付けま  
す。われわれは「ピシ」と  
呼んでいました。  
「ピシ」を海に投げ入れ  
ると、面白いようにカマス  
が食い付きまして。

## いつも身近だった海

外機を取り付けました。沖  
釣りに行くためです。

沖では夏から秋にかけて  
カマスがたくさん釣れまし  
た。釣り方は独特で、弓形  
に湾曲したワイヤに重りと  
テグス糸を付け、その先に  
「バケ」と呼んでいた疑似  
餌、そして針を付けます。  
「バケ」はゴムチューブに

「来たぞ、来たぞ」  
投げたのは引き上げ、投げ  
ては引き上げ…。糸が手に  
食い込まないよう、人さし  
指には指サックです。友達  
と夢中になって繰り返しま  
した。大きいものは30センチ  
以上ありました。カマスは釣  
り上げられると「キュッキ  
ュ」って鳴き声を出します。  
ボートの半分くらいがカマ  
スでいっぱいになったこと  
もありました。  
(たかはし・ひろし)



わかれ

7

20



中学から高校時代まで「非公式」にゴルフを楽しんでいた筆者（右）＝1954年1月、静岡県熱海市の熱海ゴルフ倶楽部

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1948年、私は静岡で新制の熱海市立熱海中学校に入学しました。新制中学校は前年の47年、教育基本法と学校教育法の施行で開設されたばかりでした。

そのため全国的に校舎の建設が間に合わないところが多く、われわれも熱海市立第一小学校と改称した熱海国民学校や、静岡県立熱海高校の教室を間借りしての授業でした。学制変更の関係で生徒数が多くなり教室が足りず、講堂を四つに仕切って教室代わりにして授業をしたりしました。1クラスは約50人でした。

熱海中学校1年生の時、自宅のある同市伊豆山一帯

で異型しよう熱が集団発生しました。しょうこ熱に似た伝染病で高熱や発疹が出ます。私も罹患し、1カ月ほど同市の国立東京

第一病院熱海分院（現国際医療福祉大学熱海病院）の隔離病棟に入院しました。病後はあまり積極的に運動しませんでした。ゴルフはよくやりました。中学生がゴルフ？と思われ

たしょうが、もちろん正式なゴルフではありません。伊豆山には、39年に開場

## 中学の仲間とゴルフ

した熱海ゴルフ倶楽部があります。わが家から山の中を通れば、徒歩10分ほどでした。戦時下で作られた最後のコースだそうです。戦争の激化とともに閑散としていきました。戦争末期は一部が畑になっていたようです。

戦後は連合国軍総司令部

した。一帯を遊び場としていた私や友達、ちよつと探せば両手いっぱいに拾えるので面白くなり、ボールがどこに落ちるか確認するため、場外からプレーを見物するようになりました。自然にルールも覚えます。そして木の根っこを削ってゴルフクラブめいたもの

込み、きれいに整備されたグリーン上で打つようになりました。爽快感は格別です。ただクラブは一本きり。2日がかりで作ったクラブに1打目でびびが入ってしまい、がっかりしたこともあります。靴でなくけたでグリーンに上がったこともありました。

しばらく遊んでいると、気付いた支配人が高台のハウスからわれわれを追い払いにやって来るのが常でした。せかせかと小走りに、コースを通って下りて来るので、すべわかります。

「おい、来たぞ」

「まだ大丈夫だろ」

「逃げろ」

転がるようにゴルフ場から退散し、息を切らして山の中まで来ると、皆で大笑い合ってたものです。

（たかはし・ひろし）



# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

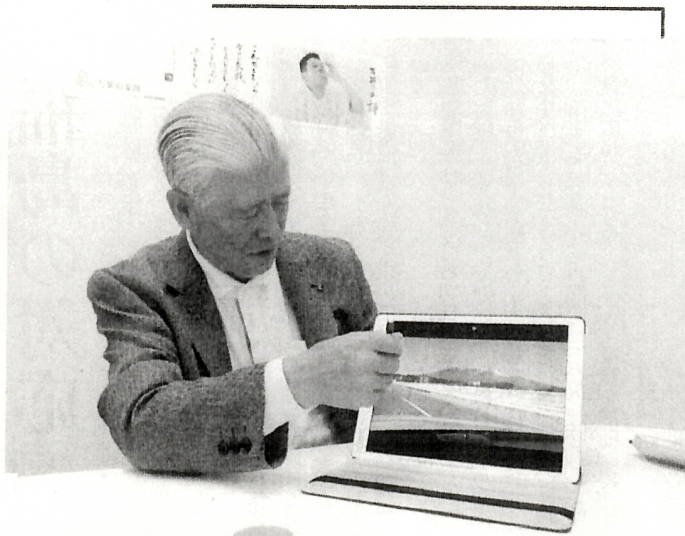
2017年[平成29年]

3月10日[金]

友引

©神奈川新聞社 26798号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

わが人生  
8  
80



新しい機械が好きで、タブレット型コンピューターは7年前に購入。ブログにLINEにと毎日活用する筆者  
＝2017年1月、小田原市の万葉倶楽部本社

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

### 初めてカメラを入手

後年写真のDPE事業の会社を起こす私が、初めて自分のカメラを入手したのは、静岡で熱海市立熱海中学校に通っていた頃。親にねだりボックスカメラを買ってもらったのです。ボックスカメラは、箱型の簡単な構造のカメラです。使うフィルムは「ブローニー」で、35mmフィルムよりサイズが大きいので、引き伸ばさなくてベタ焼きにしても見える写真になります。

中学校の修学旅行で、担任の先生がうれしそうに「フィルムが1本手に入っただからと、日光東照宮の陽明門でクラス写真を撮撮ってくれました。それほどフィ

一つとして興味を持ったのだと思います。私は新しい機械ものが好きで、現在もタブレット型コンピューターなどを活用しています。その意味ではカメラでなくともよかったのかもしれない。でもこの時カメラを買ってもらったことが、高校時代の写真部入部、そ

は紅組でした。当日、クラス選出の応援団員に選ばれた私は集合場所に行きました。全学年全クラスの団員が集まっている中、担当の先生が私を見つめて「高橋、お前が紅組の応援団長だ。突然で驚きました。赤色の長い鉢巻を渡され「ようし」と

た。紅白各組に戻り、それぞれ応援歌を歌います。体育祭の始まりです。いやあ、大変気持ちのよいものでした。戦いの火ぶたを切ったのですから。大げさな言い方ですが、五輪の開会式での最終聖火ランナーほどの高揚感がありました。自分から団長をやりたいと手を上げたのではなく、先生に指名されたというのうれしかったです。

ルムが貴重な時代でした。なぜカメラが欲しかったのか。鉄道など撮影したいものがあつたわけではありませぬ。近代的な機械の

して後年の起業へとつながっていくのです。中学時代にはもう一つ、忘れられない思い出があります。1950年、3年生のときの体育祭です。全校生徒が紅組と白組に分かれて勝敗を競うのですが、これに際し、両組の応援団が結成されます。私のクラス

きゅつと巻きました。開会式に先立ち、紅組応援団長の私と白組応援団長とが大きな団旗を掲げて、左右からゆつくり出ていきます。全校生徒が注視する静寂の中、中央まで来て握手をしました。「ワッッ！」歓声と拍手が起こりました

たいと手を上げたのではなく、先生に指名されたというのうれしかったです。この先生は社会科の担当で、課題を出して生徒に調べさせ発表させることを授業に取り入れていました。私は、戦後の日本が連合国軍総司令部（GHQ）によって航空機の製造を禁止された理由を調べて発表することがありました。

（たかはし・ひろし）



# 神奈川新聞

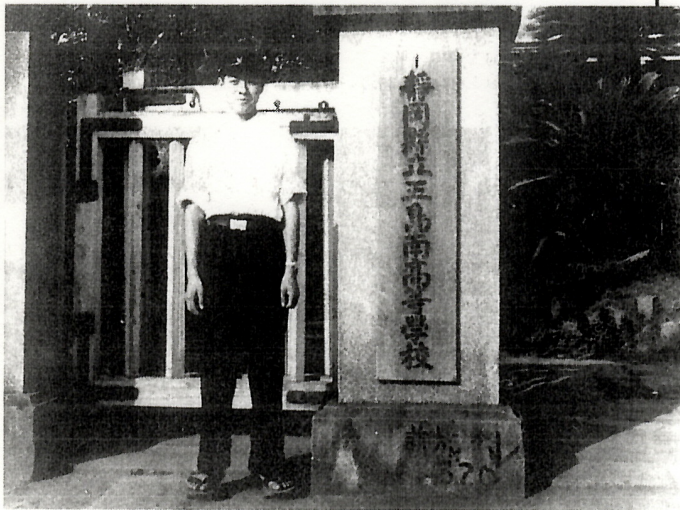
THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月13日〔月〕

大安

わが人生 9



高校2年生の筆者。写真部に入り、スナップ写真も多く撮るようになった  
＝1952年、静岡県立三島南高校

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

### 単位制商業科に進学

静岡県の熱海市立熱海中学校3年生になったばかりの1950年4月、熱海市街が大火に襲われました。夕方、工事現場での失火が強風にあおられ、一気に燃え広がったのです。わが家は市の中心部から約3キロ離れた伊豆山の中腹にあり、市街地の空が真っ赤になって

いたのが見えました。「おい、大変だ」「熱海が全部燃えちゃうぞ」友達と走って見に行きました。鎮火したのは深夜になってから。市の4分の1が壊滅したそうです。

同年、大火からの復興に合わせ、熱海国際観光温泉文化都市建設法が公布され

ました。これにより中心地域が区画整理され、道路や下水処理場など社会基盤が整えられていきます。熱海は災いが一転し、観光都市

になったのですが、3年生の2学期になり、進学したいと思ふようになりました。「高校に行かせてほしいんだけど…」

そう切り出すと、父はしばらく考えて「分かった。高校を出たら店を手伝え」と許可してくれました。母は反対でしたが、父の意

として大きく発展していくことになるのです。

そこで当時の熱海中学では、卒業後進学する生徒は全体の4割程度で、私は残り6割の就職組でした。

親からは常々、長男のおまへは卒業したら家業の高橋酒店を継ぐのだと言われており、特に疑問も持たなか

見は絶対でした。後年知ったところでは母はこの時、易者に相談し「この子は進易者なら家業を継がない」と言われたそうです。約10年後その通りになった時、母はとうに覚悟していたのかもしれません。

当時静岡県は学区制が厳密で、熱海市居住の場合、

普通科なら熱海高校、工業科なら沼津工業高校」と決まっていた。私は店を継ぐことを考え、商業高校に行こうと思いました。それが県立三島南高校（同県三島市）の商業科で、1951年に入学しました。

同校の前身は「さんしやう」と呼ばれた三島商業学

校です。49年に校名を改称すると同時に、普通科と商業科を併設しました。同校の記録によると、私の入学した51年は定員が1050人。普通科450人、商業科600人で、計21学級でした。

同校では私の入学年から週5日制とともに、単位制

が実験的に導入されました。3年間で90単位以上の取得が定められていたと記憶しています。3分の1の33単位が必修科目で、3分の2は選択科目でした。歴史なら世界史か日本史かを選び、自分で時間割を作ります。学年による教育課程区分がありませんから、2年生や3年生と一緒に授業を受けました。人気のある科目は、40人の教室に150人くらい集まってしまうこともありました。

単位制という点に、戦後の新しい時代を実感しました。自分の頭で考え行動するという主体性も育まれたと思います。

高校2年になると写真部に入部しました。このことが私の人生を大きく変えるきっかけになるのです。

（たかはし・ひろし）



# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

3月14日[火]

赤口

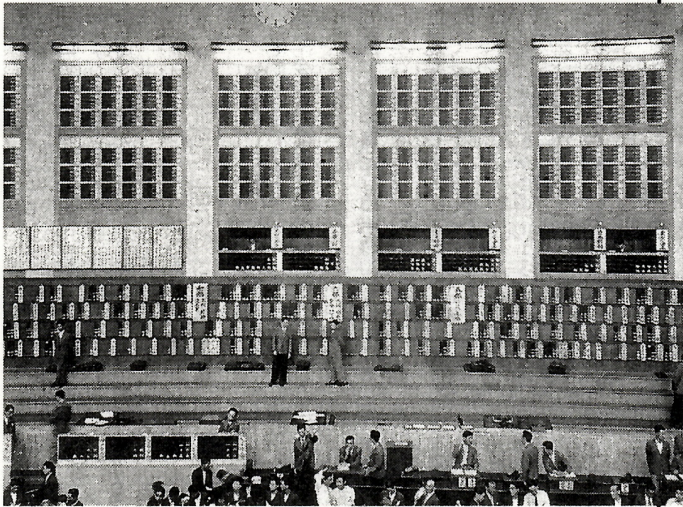
©神奈川新聞社 26802号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

わが人生

10



高校の修学旅行で訪れた大阪証券取引所。立会場で証券会社の人々（下方）が売買のサインを出している  
—1953年（筆者撮影）

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1951年、静岡県立三島南高校の商業科に入学した私は、部活動として電気部に入りました。電気の研究とともに、校内の配線やスピーカーの調整なども行いました。

ある時、学校に社会学者で思想家の清水幾太郎さんが講演にいらしたことがあります。戦後の進歩的文化人の代表ともいえる方で、

めることも写真部に任せられました。担当は私です。会場となる講堂に早めに入り、撮影位置を決め、三脚にカメラをセットし、アングルの調整しました。準備が整った頃、全校生徒が集まってきました。静かに清水さんの登壇を待っていた、そのときです。

が無事に撮影できました。技術や芸術性にはあまりこだわらなりましたが、月食の様子を5分ごとに多重露光で撮影したことがあります。露出やシャッター速度などを自分で工夫し、写真専門誌に投稿したところ、賞を頂きました。カメラを持つている学校

を作る薬品などをよく買いに行きました。後にはカメラも何台か買いました。友達に頼まれたときは福陽社で材料をそろえ、写真部の暗室で作業を行いました。日本は敗戦から7、8年がたっていました。私が中学3年生だった1950年に朝鮮戦争が始まり、その特需で復興に弾みがつきました。朝鮮戦争が終わった53年、高校3年生の時の修学旅行で関西方面に行きました。商業科だったからでしょう。大阪証券取引所（現大阪取引所）も見学しました。立会場で大勢が手でサインを送って株を売買する様子を私は撮影しました。わいわいとすごい活気でした。神武景気が始まり、日本が高度経済成長期に入るのは55年のことです。（たかはし・ひろし）

## 高校で写真部に入部

2年生になると、電気部を辞めて写真部に入部しました。中学生の時、親にカメラを買ってもらって以来、写真への興味が大きくなっていたからです。

平和問題談話会のリーダーを務めるなど、活発な平和運動を展開。若者の熱い支持を集めていました。講演会の周知のため、写真部が学校側からチラシ作りを任せられました。著書から顔写真を複製するなどして作成しました。

大きな音が響き渡り、みんなが一斉に私の方を向きました。何と私が三脚に自分の足を引っ掛けて、倒してしまったのです。

の友達から、フィルムの現像やプリントを頼まれることもありました。街の写真店にわざわざ持っていくより、私にやらせて渡せました。費用も材料費程度で済むからです。

熱海駅前には福陽社というカメラ屋さんがあり、印刷紙のほか、現像液や定着液

部員は男子生徒ばかりで10人ほど。部室には暗室や引き伸ばし機、高性能のカメラがありました。部で「アサヒカメラ」など写真専門誌を購読しており、技術面を独学できました。

講演の様子をカメラに収

焦りながら機材を元に戻している司会者が「清水幾太郎先生です。拍手でお迎えしましょう」。どうに